

タウンリー Ⅱ サイクル劇 (Ⅱ)

橋本 侃

第二演目 アベルの殺人⁽¹⁾ 〈あべるノ殺人 第二山車〉

〈写本3頁〉

上演 手袋業組合

〔登場人物 ガルキオ (Ⅱピックハルネス)⁽²⁾ カイン アベル 神〕

(1)

ガルキオ 皆の衆、ようこそ、皆の衆、ようこそ、さあ、楽しんで、さあ、喜んでください、陽気な若衆のぼくが、このとおり来たからには！

騒がないでくださいよ、さもないと、ぼくの親方は悪い人だから、悪魔に助けをもらうことになりますよ。

なんと、目の前にいる、このぼくが見えないんですか？

そんなに大声でぺちやくちややるのもこれまでです——
 そんな奴には真ッ黒なこの尻穴を吹かせてやらなくては、
 前も後ろも両方とも、

齒から血が出るまで。

皆さんよ、ここでは禁じられているんだ、

物音を立てたり、大声を出したりするのは！

大胆にもそんなことをする奴がいたら、

悪魔に首吊りの天日干しにしてみらえ、だ！

(2)

あんたら下衆な人たちよ、おれは大物なんだぞ。

親方は良い自作農(4)と呼ばれている——

みんなもよく知ってのとおりだ。

親方があんたらと争いを始めたりしてみろ、

あんたらに勝ち目がないのは確かだ。

でも、生きてる神にかけて言うが、

あんたらのうちの何人かは親方の家来であることは承知している。

だが、腹が立ってもそれを口には出さないようにしなよ、

あんたらは、どいつもこいつも、ろくでなしだから、
親方が来たら、しかるべくお迎えしなさいよ。

さようなら、これでおれは行くから。〔ガルキオ退場。鋤込みながらカイン登場。〕⁽⁵⁾

(3)

カイン それ行け、雄牛⁽⁶⁾のリーンホーン、気つけろ、雄馬のグライム！

引っ張れ！ そんなことだと、神の奴に病気を見舞ってくれますように、だ！
気を失ったか、お前たちはぼうっとつっ立ったままだ。⁽⁷⁾

なんと、これ以上、前に進む気がないのか、この女馬は？

どう、どう！ ダウンの奴がどう引っ張るか見てやろう。

まだ、まだ、もうちょっと引っ張れ、このあばずれ馬め！

なんと、おれが怖くないようだな、おれを怒らせたらどうなると思う？――

いいな、ダウンちゃんよ、動いてくれや！

動かないというなら、神が悲しみと苦しみの数々を与えてくれるといい！

ほうれ、見る、動いたところを見ると、おれの言ったことが聞こえたようだ。

今頃、動いたところで、お前は本当に最悪の女馬だ、

これまで鋤につなげた馬のなかでは。

(4)

おい、ピックハルネスよ、さあ、直ぐにこっちに来い！〔ガルキオ登場。〕

ガルキオ 誓って言う、神が禁じたとおり、あんたが仕合せなどにならぬように！

カイン なんだと、この餓鬼め、このおれに鋤を握らせるは、牛馬を駆り立てさせるは、両方をさせる気か？
さっきから大声上げているのが聞こえないか？

ガルキオ さあ、モール牛か？ おっと雄牛のストット、貴様たちは動かぬつもりか？

雄牛のレミング、馬のモレル、雄牛のホワイトホーン、行け！

あっちがどんなに精を出しているか、こっちにいる貴様たちには見えないのか？

カイン この餓鬼め、神に苦しみを与えてもらえ！

お前がろくに食い物をやっけないせいで奴らは動かないんだ。

ガルキオ 確かに、親方、飼葉はやらないように、

奴らの尻の後ろに置いておいた。

(5)

奴らの首はくびきでしっかり結んでおいて、

飼葉格子にたくさんの石ころをいれておいた。

カイン そんな嘘を言うほったには、こうして罰してやる！

ガルキオ 当然、それではこっちもお返しだ！

カイン おれはお前の主人だぞ。主人を相手に家来が喧嘩するつもりか？

ガルキオ そのとおり、いただいた分だけはしっかりと、

報いられたものはお返しします。

カイン なんたる！ いまは奴らに掛け声だけ掛けてればいいんだ。

そうすれば、こっちの畑はもう耕し終わるから、今度はあっちだ。

ガルキオ 馬のハラル、馬のモレル、それ、前に進め！

それに、鋤は使わずに、真っ直ぐ、つつ立ったままにしておけ。〔アベル登場。〕

(6)

アベル できることなら、神様が、

兄さんと下男に、幸せを恵まれますように！

カイン こっちへ来て、おれの尻を吸え——呪いの言葉は吐きたくないのだが……。

歓迎なら、こでなくて、あっちでもらえ。

呼ばれるまで、あっちで待ってれば良かったのに。

こっちへ来て、家畜を進ませるか鋤を握るかのどっちかにしろ。

そして、悪魔のケツに吸い付け！

行って、お前の羊のケツの下に軟膏を塗れ、

それが一番大事なことだから。

アベル お兄さん、あなたを困らすような羊は

このあたりに一匹もいませんよ。

(7)

でも、愛しいお兄さん、ぼくの言うことを聞いてください。

ぼくたちの掟の慣わしです——

知恵のある者として働く者はすべて、

生け贄をもって神を崇めることになっています。

父はぼくたちに命じました、父はぼくたちに教えてくれました、

十分の一税であるぼくたちの供物は燃やさなくてはならない、と。

さあ、こっちに来てください、お兄さん、一緒に行って

神様をあがめましょう。こんな所でぐずぐずしてはいられません。

ぼくたちの財産の一部を神様に捧げるのです、

穀物でも家畜でもなんでも。

(8)

それゆえ、お兄さん、一緒に行きましょう。

最初に、この身から悪魔をきれいに取り払いましょう、

生け贄を捧げる前に。

次に、終りのない喜びを、

ぼくたちの奉仕によって、手に入れるのです、

（9）

ぼくたちの魂の癒し手であるキリスト（8）に仕えることで。

カイン なんたる！ ガチョウを表に出せ——狐が説教を始めたがっているぞ、（9）

おれの邪魔をどのくらい長くする気だ、

お前のお説教で？

口を閉じろ、そう言ってるのだ、このおれは。

いくらそこで貞淑な女房が馬草でケツを拭こうが、

悪魔のような座り方で挑発しようが、

お前がいちいち無駄なけちをつけることはない。

（10）

おれの鋤もなにもかにも、うっちゃっておいて、

お前と一緒に行って供え物をしたほうがいいと言うのか？

いや、このおれがそんなに気が狂ってると思ってくれるな！

悪魔のところへ行け、そして、おれに命令された、と言え！

そんなにも神を褒め上げるのは、何かをお前にしてくれたからか？

おれのほうには悲しみと痛みだけしかくれない。

(11)

アベル カイン兄さん、そのような無駄口を止めてください。

なぜなら、神様はあなたにすべての生きる糧をお与えになっている。

カイン だが、はした金一ファージングさえも一度として

神の奴から借りてはいない——このように、手を上げて誓う。

アベル お兄さん、長老たちが教えてくれるように、

先ず、ぼくたちが手ずから捧げ物の十分の一税を納め、

その後で、神様を褒め称えて、燃やしたほうがいいのです。

カイン おれの金は祭司の手のうちにある、

おれが前に納めて以来。

アベル 愛するお兄さん、一緒にあそこまで歩いていきましょう——

ぼくたちの捧げ物を捧げたいのです。

(12)

カイン なんたる！ おれは何を捧げればいいんだ、おれの愛する弟よ？

おれのは毎年、他の年よりも悪くなっている——

これが真実だ、それより他に言いようがない。

おれの手で稼いだ物は他ならぬおれの物だ。

おれがやせ細っても、なんの不思議はない。

神の奴に向かって長いこと不平を言ってもいいだろう。

なぜなら、おれを高く贖ってくれたキリストに掛けて言う、

奴はおれには何もくれるつもりはないと信じる。

アベル そのとおり、あなたはすべての良い物をたくさんもっています、

神様の恵みのほんの一つの贈り物です。

カイン おれにもくれるってか？ お前にもおんなじ繁栄がもたらされるといい！

なぜなら、ずうっといままで奴はおれの敵だ。

なぜなら、ずうっとおれの友だちだった、

そうでなければ、はっきりそのように見えていたはずだ。

種を蒔こうとして種が足りない時に、

おれの種は針一本の値打ちもなかった。

種を蒔こうとして種が足りない時に、

たくさんの穀物が必要だった時に、

奴はおれには持物の一つもくれなかった。

ここにある物を奴にやるつもりはおれにはない。

どうしてもおれを非難するならするがいい、

まったく同じように奴に奉仕していないからといって。

アベル 愛しいお兄さん、そんなこと言わないで、

一緒にゆきましょう。

良いお兄さん、直ぐに行きましょう。

これ以上、ここでぐずぐずしていないのがいいですよ、遅れているのですから。

カイン やい、やい、さっきから無駄口を利いてやがる！

おれが急いだら悪魔におれのお加護を願うところだ。

おれが生きているかぎり、

おれの財産を分けてやるか、くれてやるかだ——

神にやるか、人間にくれてやるか、

このおれが手に入れたどんな物でも。

なぜなら、もしもおれが財産を手放したら、

貧乏だから、頭巾は擦り切れたままにかぶって動き回るさ。

持っている物は持ちつづけたほうがいい、

戸口から戸口を訪ねて物乞いするよりは。

アベル 兄さん、神様の名前に掛けて言います、前に進んでください。

ぼくたちが非難されるのではないかと、とても心配です。

あそこに居られるように急ぎましょう。

カイン　なんと！　悪魔の名に掛けて言う、おれより前を走れ！

ああ、なんたる、お前は気でも狂ったか！

おれが急いで行きたいことがお前にもやっとな、

おれの地上の財産を手放すためにだど？

そのように教えてくれた悪魔に栄えあれ、だ！

おれの苦勞を無にするのに

靴を履いて、靴下に穴をあける何の必要がある？

アベル　愛しいお兄さん、大きな不思議ですね、

ぼくとあなたが連れ立ってゆくなんて。

これを見たら、お父さんは感激して大泣きすることでしょう。

あなたとぼくは兄弟なんですね！

カイン　いいや、だが、泣け、泣け、良かれと思うなら！

これがおれの真実の声だ——お前を狂っているとおれは思う。

神の奴が喜ぼうが怒ろうが構わぬが、

おれの財産を配るのはおれにとつて実に嫌悪すべきことだ。

かつてはしばしばゆっくり遠くまで行った、

ご利益があると信じる所には。

だが、おれにはよく分かったぞ、今回はぜひとも行かなくてはならない。

さあ、おれの前を行け——お前がやり損ねるようにと願う、

おれたちがどっちみち行くということなので。

アベル 愛しい兄さんよ、そんなことをなぜ言うのですか？

でも、一緒に揃って行きましょう。

いい天気ですね、神が称えられますように。

カイン この岡の上にお前の束を置け。⁽¹⁰⁾

アベル そのようにしますよ、兄さん。

天の神よ、良いように計らってください！

カイン 気が狂っているようなら、最初に捧げたらいい。

アベル 天と地の両方を造られた神よ、

ぼくの声を聞いてくれるように、あなたに向かって祈ります——

御心ならば、喜んでお受けください、

ここにあなたに捧げる十分の一税を。

いそいそと差し上げましょう、

ぼくの主よ、すべてのものを送ってくださいあなたに。

不動の信念をもって、ぼくの供え物をこれから焼きます、

すべてを造られた方をあがめながら。

カイン 立て！ お前が終わったのだから、今度はおれにやらせろ。

天の主よ、おれの願いを聞いてくれ！

そして、おれたちの神よ、

捧げるのがおれだと判って、お前が感謝と親切な言葉を言うのを、神よ、どうか禁じたまえ。

なぜなら、この二つの脚を使うのが楽しいだけなのだ。

非常につらいのは、おれの意思に反して、

あなたに向かってここで捧げ物を差し出すことだ、

おれのために出来た新しく穀物などをだ。

でも、これから始めるつもりだ——

おれの捧げ物を焼かなくてはならないから。

一束に、もう一束——これで二束になる。

だが、どちらももったいないから手放すことはできない。

二束、二束——これで三束となる。

そうだ、これもまた手元に置いておこう、

選びに選んで、一番いい物を手元に置いておくつもりだから——

ここにある全部の束のうちで、この一掴みは残す。

おおなんたる、なんたる、これで四束目だ、見ろ、ここを！

今年はおれが苦しめられなかったのがよかった。

しかるべき時にりっぱな小麦を蒔いたら、

刈り入れた時にはそのとおり、りっぱなものとなった。

アザミとイバラ——まったく、どこもかしこも一杯に茂ってやがる——

それに、ありとあらゆる似たような雑草だ。

四束だ、四つだ——見ろ、これで五つになった。

このように急いで捧げ物を分け与えたとしたら、うまく事が早く運んでくれるように！

五つと六つ、さあ、これで七つになった。

だが、これは天の神には決して届かない、

この四つのうちのどれも、おれの力で、

神の視野に決して入らせない。

七つ、七つ、さあ、これで八つだ……

アベル カイン兄さん、神様に気持ちを向けていないですね。

カイン なんだと！ それは、言ってみれば、こういうことだ——

財産を分け与えるつもりはおれにはない。

これを代わりの捧げ物にした。

それなら、奴がおれの友だちだと言っている。

でも、この頭巾に掛けて言う、

おれの財産のうちから、そう簡単にこれを手放す考えはない。

なんと！ 八つ、八つ、そして、九つ、それで、これで十束だ。

なんと！ この十束目なら手放してもちっとも惜しくない。

そこにあるのを奴にくれてやるだと？

そんなことをしたらおれの心はひどく痛む。

(13)

アベル カイン兄さん！ すべての生産物の十分の一税を正しく払ってください！

カイン なんだと、見ろ！ 十二、十五、そして、十六——

アベル カイン兄さん、数をごまかした捧げ方です、しかも、最低の部類です。

カイン なんだと！ こっちへ来て、おれの目に目隠しをしてくれ、さもないと分別するぜ——

縁起でもねえ、やっとお前にも分かったな！

さもなければ、おれが目を閉じるのをお望みか？

それなら、悪さをするつもりはない、と思うが……。

(14)

どんな具合になったか見てみよう――

見ろ、おれは報いを受けたようだ。

当てずっぽうに言うとおれは素晴らしくうまく捧げ物をした。

二番目の十束も正確に捧げた。

(15)

アベル カイン兄さん、あなたは神を全然恐れていないようにぼくには思えます。

カイン 神の奴がもっと多く手に入れたら、悪魔におれを栄えさせよ、

束の一抱えだって！

なぜなら、その十束目は奴にすごく安く渡ったからだ。

大きくもないし小さくもないし、そんなに多くもない、

それで自分のケツを拭くことができるくらいだ。

なぜなら、そっちに積み分けたのと、ここにあるこの上等の束には

ずいぶんと高く張り込まされたのだ。

これを刈り取って、稲村に積み上げるまで、

疲れて背中が痛かった。

それゆえ、この件については、あれこれ聞くな、

なぜなら、もうすでにおれの意思を明らかにしてあるから。

アベル カイン兄さん、正しく捧げ物をするように勧めます、

いと高きところに座られる方を恐れるので。

カイン おれがどのように捧げるか少しも構わずに、

疥癬にかかったお前の羊を気にかける。

なぜなら、おれの捧げ物に気を分け与えるようでは、

お前のためには、それだけ悪いことになるぞ。

お前の望みだと、奴にどっちをやるのがいいか、こっちの束か、それとも、こっちか？

いいや、この二つの束のどちらも渡すつもりはない。

だが、これを取れ。これで、奴は二つを手に入れた。

だが、ひどくおれの気持ちに反して、これを出すから、

奴はひどく気に入らないだろう。

アベル カイン兄さん、ぼくが勧める奉獻の仕方はね、

天の神があなたの友になるようにしなくては。

カイン おれの友だちだと？ いいや、奴の方でその気がなくちゃあならない！

奴には道理になかったことしかしていない。

もしもおれの敵なら、

奴にはこれ以上やらぬことに決めた。

でも、おれがしたように、お前も考えを換えろ——

お前の病気のブタを十分の一税にするつもりはないのか？⁽¹¹⁾

アベル 正しく捧げられているかどうかは本人に判るはずです。

カイン そうだ、悪魔のケツに後ろから吸い付け。

悪魔の奴がお前を首吊りにしてくれたらいい！

どのようにおれが捧げ物をするか全然構ってくれるな。

まだ黙るつもりはないのか？

その無駄口を止めるように勧めておく。

そして、おれの捧げ方がいいか、悪いか、どうでもいいが、

節度を持った振舞いをし、道理にかなった口の利き方をしなよ。

だが、さてと、お前はすでに自分の奉獻を済ませたのだから、

これからおれのに火を放つことにしよう。

なんと！ うえー、息継ぎをさせてくれ！

おれのためには燃えてくれぬつもりだ、絶対。

ごほん、ごほん！ この煙は目にしみて痛い——

さあ、悪魔の名に掛けて言う、燃えろ！

ああ、これは地獄のどんな悪魔の仕業か？

息がほとんど止まってしまった。

一陣の煙でも、もう一度吸い込んだら、

その場で窒息してしまうところだった。

地獄の悪魔のような臭いにおいだった。

あれ以上長くは同じ所に立っていられなかった。

アベル カイン兄さん、これはニラネギほどにも価値のないものです。

あなたの捧げ物はくすぶるだけで、燃え上がらない！

カイン さあ、悪魔のケツに吸い付け！

お前のほうが、おれのより燃えは悪いぞ。

お前が喉に吸い込めばいいと願う、

火と束と、若枝の一つ一つを。「神が山車の上部に姿を現す。」⁽¹²⁾

神 カイン、なぜお前はそんなに反抗するののか、

弟のアベルに對して？

(16)

口争いもたけり狂うこともしてはならない。

もし正しく捧げ物をすればお前は報われる。

そして、これが確かだと思え、もし不正に奉獻すれば、

今後は、同じように報いを受けるだろう。〔退場。〕

(17)

カイン　なんと、壁を越えた向こうからしゃべるあの化けもんは誰だ？

なんたる、あんな小さな声でびーびーほざくのは誰だったのだ？

さあ、おれたちは向こうへ行こう、なによりまして危険なのは、

神の奴が正気でなくなったことだ。

アベル、さあ、前に進め、そして、一緒に行こう。

神がおれの友であるとは思わないから、

遠くまで逃げてゆくつもりだ。

(18)

アベル　ああ、カイン兄さん、ごまかしをしましたね。

カイン　いいや、違う、だが、ここから直ぐに立ち去ろう。

そして、できることなら、神の奴がおれの姿を見ない所に居るつもりだ。

アベル　愛しい兄さん、ぼくたちの家畜がいる畑に、

行ってみるつもりだ、

腹をすかせているのか、おながが一杯なのかを見るために。

カイン　いや、いや、待て！　言うことがある。

良く聞け、行く前におれに話がある。

なんと、お前は逃げ出すつもりか？

なんと、だめだ！ お前にはひどくむかついている。

そうだ、今が仕返しをする絶好の時だ。

アベル 兄さん、ぼくにたいして、どうしてそんなに怒るの？

カイン なんと！ 悪党め、どうしてお前の捧げ物はいんげんに明るく燃えたのか、

おれのが煙を上げてくすぶっているだけだというのに――

まるでおれたちを二人とも窒息させるつもりのようにくすぶった。

アベル それは神様の御旨であったと信じます、

ぼくがいんげんに明るく燃えたのは。

あなたのがくすぶる煙を出したのは、ぼくが悪いからですか？

カイン なんと、なんたる！ これにはしっかり報いてもらおう。

ここで止めにしないで、頬骨を使って、

お前とお前の命を真つ二つにしてやる。「アベルを殴り殺す。」

そのように、そこへ横になって、ゆっくり休め。

悪漢は体罰によってこのように懲らしめてやるのが一番だろう。

(19)

「アベル 主よ、復讐を、復讐を、ぼくは叫び求めます！

殺されたのです、罪もないのに。〔死ぬ。〕

カイン そのとおり、そこに横になってる、悪党め！ 横になってる、横に！

(20)

それに、見物の皆さんのうちの誰かが、おれが間違ったことをした、とお思いなら、実際よりも更に悪い罪に改めるつもりだ、

すべての人に見てもらうために。

今も実際の罪より十分に悪く、

これからもちょうどそのまんまになるだろう。

さてと、奴を眠らせたので、

どっかの穴に四つんばいになって入り込みたいものだ。

怖くて体が震え、これからどうしているのか分からないでいる――

捕まったら、死んでも同然だからだ。

ここに四〇日⁽¹³⁾の間こうして横たわっていて、

おれを最初に起こす奴を殺してやる。〔神が山車の上部に姿を現す。〕

神 カイン、カイン！

カイン

おれのことを呼ぶのは誰だ？

おれはここではなくて向こうにいるんだ、見えないのか？

神 カイン、弟のアベルはどこにいる？

カイン 何をおれに聞くのだ？ 地獄にいるはずだ、

地獄にきつと奴はいると思っぜ。

奴の姿がひつとしたらあんたの目に付くだろう——

地獄にいるか、あるいは、どこかで寝込んでいるのを。

奴がおれの保護監督下にいつ入ったのか？

神 カイン、カイン、お前は怒り狂っていたのだ。

お前の弟の血が上げる声が、

悪辣な方法でお前が殺した

弟の復讐の声が地上から天に向かって上がってきた。

それに、お前が弟を殴り殺したので、

ここに、わたしの呪いを与える。

カイン 本当だとも、したいように他の人にすればいい、なぜなら、おれは何の罰も欲しくない。

あるいは、おれがいなくなつてから、そんなものは引き取ってくれるといい。

これまでに多くの罪を犯してきたのだから、

あんたの慈愛を勝ち取ることではできないだろう。

そして、あなたのお恵みでおれのためにこんなにしてくれるから、
あなたのお顔の前から姿をくますつもりでいる。

そして、そこがどこであれ、おれを見つけた奴がいたら、

そいつにおれを必ず殺させてくれ——

そこがどこであれ、おれに出会った奴がいたら、

小道であれ大通りであれ、どこであれ。

そして、おれが死んだ時には、

グディバウアの石切り場の頂上に必ず埋めてくれ、

なぜなら、その場所を無事におれが通ることができるなら、

相手がどんな野郎でも屁とも思わない。

神 いいや、カイン、そうではない、誰にもお前を殺させない。

どんな人間も他の人間を殺すようなことをしてほしくない、

お前を殺すのが、若者であろうが年寄りであろうが、

七回¹⁴は罰しなくてはならない。〔退場。〕

カイン そんなの問題でない！ どこに行くのかおれには分かっている。

地獄がおれの居場所だと分かっている。

慈愛を切に願っても無駄なことだ——

求めてもなんの慈愛もおれには得られないからだ。

(21)

だが、この死かばねを隠しておきたい、
分ならず屋の誰かがやってきて、

「逃げろ、悪漢め！」と命じると、

おれが弟を殺したと思うかもしれない。

(22)

だが、ここに下僕のピックハルネスがいたら、
弟と一緒に埋めるのだからなあ。

おーい、ピックハルネス、浪費家め、おーい、

おーい、ピックハルネス！

ガルキオ

ご主人さま、ご主人さま！

(23)

カイン 聞こえるか、この餓鬼？ 仕事の話だ。⁽¹⁵⁾

そいつを取れ、この餓鬼、そいつを取れ！

ガルキオ あんたの頭巾の下の丸頭を呪ってやる、

あんたが血と肉を分けたおれの親父だとしても！

一日中、走って、ばたばたやって、

何回も何回もあんたはぼくを殴った。

このようにここに来たのも、またまた、ぶん殴られるためか！

カイン 静かにしろ、男よ！ 片手が使えるかどうか試しただけだ。

(24)

だが、聞け、餓鬼め、お前に相談事がある。

今日この日、おれは弟を殺した。

できるのなら、いい子だ、お前にお願ひがある、

骨を持って走って逃げてくれ。

ガルキオ なんだって？ この悪党め、なんだって！

あんたが弟を殺したって？

カイン 男のあんたよ、神様の受難に掛けて言う、静かにしろ！

(25)

冗談で言ったんだ。

ガルキオ おやまあ、だけど、怪我をしたくないから、

あんたをここで見捨てるよ。

おれたちは大きな不運な目に遭って、

お役人におれたちは捕まるかもしれない。

(26)

カイン ああ、あなた、あなたに慈悲を請います！ 行くのを止めてください、
そうしてくだされば免罪をして差し上げますから。

ガルキオ なんと、おれの国王の保護布告を叫び求めるつもりか、
この国中を回って？

(27)

カイン そのとおり、そうすると神の奴に誓いを立てるぜ、直ぐにでも。

ガルキオ どのようにするつもりか、うまく永らえられるのか？

カイン 立ち上がってくれ、いい子だ、直ぐにでも、

奴らを黙らせろ、夫も妻も二人とも。

そして、おれのためを思っ何かをしてくれる人なら誰でも、

きつと運のいいやつにしてやろう。

だが、お前はおれの言いつけを守るいい子になって、

「聞け、聞け、聞け」と開廷宣言を叫べ。

ガルキオ あんたの子へ肉汁を、肉汁を！

カイン 王の名においてお前に命じる――

ガルキオ　そして、おれの主人である悪辣なカインの名において。

カイン　欠点も罪もカインとガルキオの二人に見つける者がいないように、ガルキオ　そのとおり、冷たくなった串刺し肉がおれの主人の家にある。

カイン　本人もいないし、下僕の小僧もない、

ガルキオ　なんだと！　おれの主人にわめき立たせたい。

カイン　なぜなら、二人は何層倍も正直者だからだ。

ガルキオ　おれの主人は冷たくなったキャベツ汁しか食べない。

カイン　王様はお前に書き送る――

ガルキオ　でも、腹がくちくなる半分もおれは食べさせてもらってない。

カイン　王様は二人が無事であるようにお望みだ。

ガルキオ　そのとおり、地ビールを一杯やりたいな。

カイン　好きなように、さ迷い歩かせろ。

ガルキオ　おれの胃袋はなんでも受け付けるようになってる。

カイン　誰も奴らに声を掛けさせないように気をつける、お互いにもだ。

ガルキオ　ここにいる御仁が紛れもなく自分の弟を殺したのだ。

カイン　誰にも彼にもおれたち二人を褒めて敬うように命じろ。

ガルキオ　そのとおり、紡ぎの悪い横糸はいつも解ける。

カイン　こんなことで、もたもたしてたら、事も旨く運ばない！⁽¹⁶⁾

(28)

見ている皆の衆に、どうかご祝儀を出してくれ、と命じろ。

ガルキオ　そのとおりだ、あんたの馬のダンに干し草の一束をくれてやるのとおんなじに！

カイン　なんたる！　なんでもいいから、こっちへ来い！⁽¹⁷⁾

おっと、うまく逃げられた——お前の世話は悪魔に任せる。

なぜなら、あれが弟のアベルでなかったら、

お前と同等の者など知らなかったぞ。

(29)

ガルキオ　さて、年寄りも若いのも、皆の衆よ、帰る前に、

まったく同じ終りのない祝福を、

あんたたちもみんな同じ祝福を受けますよ、

天の神がおれの親方に与えたのと同じように。

生きている間は、その使い方を楽しみな。

神は十分に認めてくださる。

(30)

カイン　こっちへ降りて来い、この野郎め、早く来やがれ！⁽¹⁸⁾

〈右7頁〉
(445)

おれをこれ以上怒らせるな！

そして、あそこにある鋤を取れ、そう言ってるのだぞ、

そして、急いでおれの前を行け。

そしたら、できるなら、

もう一つの教訓を教えてやろう。

小僧、警告したぞ、これっきりだぞ、

今からずうっと永遠にだ——

お前はおれをもう悩ませるな。

なぜなら、神の脇腹に掛けて言う、もしもお前がそうしたら、

この鋤の上にお前を首吊りにする、

このロープに結わえて、見ろ、小僧、見ろ、

おれを高価に贖ってくれたキリストに掛けて言う！

(31)

さて、さようならだ、皆の衆、

おれは行かなくてはならない、

そして、悪魔の奴隷になるのだ、

終りのない世界で。

おれの住処と定まったものだ、
悪魔のサタンと共に住む所。

不幸が起こるように、

おれをそんな場所へ勧めた奴に、

こんな時に。

さようなら、身分の低い衆よ、さようなら、身分の高い衆よ！

なぜなら、今も、これからもずっと、

ここから去って、この身を隠すつもりだから。

〔ココデ、「あべるノ殺人」ガ終り、「のあ」ニ続く。〕

〔註釈〕

(1) 「創世記」の第四章一節～十六節を劇化したもの。

(2) ガルキオもピックハルネスも聖書の「アベル殺し」には登場していない人物。Cf. "garcio 2 (personal) attendant... e servant (assigned to spec. task), d groom, servant who looks after horses." (Fascicule IV, *Dictionary of Medieval Latin from British Sources*, The British Academy, Oxford UP, 1989). "pike-harnes (a) One who despoils those slain in battle of their armor; also a despoiler"; (b) as name (MED).

(3) このような罵言は、中世の祝祭劇において相手をおとしめると同時に、観客との間に自由で、打ち解けた触れ合いを生む。(『中世ウエイクフ
イールド劇』、「註釈」、篠崎書林、一九八七年、一九二頁。)

- (4) カインが自作農でガルキオが下僕であるという人間関係が劇化されている。これはイギリス中世封建時代の主従関係を端的に現したもので、主人・親方に反抗する悪い家来・弟子の関係であり、当時の一般的な現実の様相である神と自堕落な人間との関係にこそ置き換えられる。
- (5) ト書きは *7P* (England/Pollard) を参照した。
- (6) カインがこき使う農耕用の八匹の牛馬には愛称がついている。牛なのか馬なのか論争中の名前を除いて、原文に付記のない牛か馬かの識別を試みた。
- (7) 豚などの家畜が金縛りになって人間の意のままにならないようなとき、悪魔が宿った、と古来から考えられていた。『マルコ(五・一一一—五)』を参照。『ウエイクフィールド劇』、「註釈」、一九〇頁。
- (8) アナクロニズム。劇化しているのは旧約聖書の物語であるが、現実に行われているのは十五世紀のイギリスであり、新約聖書の事象は旧約聖書に予型があるとするカトリックの世界である。一一六行、四六四行を参照。文脈としては、カインが話し手だと皮肉がより明らかとなる。(Cawley, Notes, p. 443)
- (9) 「騙されるな!」の意味であるが、カインの奉獻で得をするアベルを捕食者と捉える考え方もできる。(Cawley, Notes, p. 443)
- (10) 予型論からだすと、束を置くことは十字架を地上に置く形となる。
- (11) ブタの病気が囊虫症・サナダムシの条虫による豚などの家畜病。一行の文意は「人の事はどうでもいい、自分のハエを追え」。
- (12) 山車には演じる舞台空間が三つあり、中間舞台の現世と上下にそれぞれ天国と地獄の舞台空間が想定されていた。神は上部の張り出し舞台の欄干から姿を現す。
- (13) 四〇は試練と浄化のための期間を象徴する数である。ノアの洪水は四〇昼夜続いた。イスラエル人はエジプトを出てから四〇日間荒野をさまよい、モーセはシナイ山に四〇日留まった後に「十戒」を神から授けられた。キリストは四〇日間断食した後、悪魔の誘惑と対決した。『ウエイクフィールド劇』、一九五頁。
- (14) 聖書の記述どおりであるが、一種の魔法数。
- (15) 原文は、「鉢にデザートのプディングがある」。

(16) 原文は「靴下も履けない」。

(17) 原文は誓言で「二十の悪魔の様子で」。

(18) 原文は右註と同じ誓言である。